BRITISH LIBRARYの出版活動

渡邊和彦*

The expanding publication programme at the BRITISH LIBRARY

WATANABE Kazuhiko

[著者抄録] 英国国立図書館(BRITISH LIB.)の出版活動は、冊子体の書籍、雑誌、逐次刊行物のもとより、マイクロフォーム版や電子出版(特にCD-ROM版)の新しい開発や製作に至るまで、極めて意欲的に展開されている。英国内外を問わず、図書館学、情報科学・工学の専門家や学識者、実務家、学生等広く出版文化史、印刷製本史、東西文化交流史等に関心を持つ全ての人々を対象にしている。同館の5部門から、各部ごとに独自の編集に基づき、毎年約50点が刊行されている。その出版活動を紹介する。全て市販され、世界各国に広く案内されている。相当数の図書館関係者が常用している。総記資料の他にも、充実した専門書が揃っている。

[著者付与キーワード] BL出版物, 図書館運営, マイクロフォーム出版, 出版文化史, 電子出版, 印刷製本史, CD-ROM, 情報科学, 図書館学, 情報工学, DSC, セント・パンクラス

[Author Abstract] The BRITISH LIBRARY is eager to develop its publication activities covering not only traditional printed volumes of monographs, journals, serials, but also new developments such as microforms, electronic publications (especially CD-ROM). It is always ready to cope with requests by librarians, information specialists, learned people, business people, students or other people who are concerned with publication culture history, printing and binding history, culture exchange history between the East and the West. Five departments of BL publish 50 items each according to their own editing policy annually for wide use throughout the world. They are likely to be used among considerably large number of library concerned persons. The author introduces its publication activities.

[Keywords by Author] BRITISH LIBRARY publications, library management microform publication, publication culture history, electronic publication, printing and binding history, CD-ROM, information science, library science, information engineering. DSC, St. Pancras

* 株式会社伊国屋書店 (〒156 世田谷区桜丘5丁目38-1) Tel. 03(3439)0124 (内線570)
KINOKUNIYA Co., Ltd. (38-1, Sakuragaoka 5-chome, Setagaya-ku, 156)

1. はじめに

英国国立図書館 (BRITISH LIB. 以下 BL) は、世界各国の国立図書館の中でも、我が国の図書館界各位から、情報・研究機関の専門家や、あらゆる分野の学識者、研究家にとって、最も深い親近感を覚える存在ではないかと思う。英国博物館 (British Museum: BM) 内の壮麗なドーム状の大閲覧室 (Round Reading Rm.) への愛着と、近年はヨーク市郊外の DSC (Document Supply Center) の情報検索/原報複写サービスの利用者の急増は顕著である。

図書館・情報機関の専門家から大学関係の学識者、院生、学生に至るまで、BL本館を見学された方は相当の数に及ぶと思われるが、特に、本誌の購読者の方々は、単なる観光見物でBMを訪れた時の同時見学 (大閲覧室のみ眺望) のレベルではなく、BL本館の館内ツアー見学や、ロンドンから汽車で2時間程の北部の古都ヨーク (York) 郊外の DSC という一大分館の諸施設やサービス部門の見学を体験された向きも多いと思われる。

さらに英国内で頻繁に開催される図書館界や情報出版界の国際会議も、BLの主催や共催の企画が圧倒的に多く、それ等は、特にヨーロッパにおける図書館・情報出版界の最先端の技術やシステム開発、国際協力、情報交換の上では、極めて重要なコンファレンスやフォーラムとなっている。

一方、BLは独自の出版活動を強力に展開しており、我が国でも、BL出版物の幾点かを常備し、業務用に便覧されている方も多い。図書館学、情報工学から、英国の歴史、文学、出版文化史、古代・中世の西欧美術・写本研究等、分野は充実しており、英国屈指で大出版社に並ぶ出版実績を見せている。一昨年よりニューメディア出版も開始された。

今回は、先進国の代表的な国立図書館の出版活動を総覧・紹介していく拙稿の一環として、まずBLの出版活動の全容を、最新の時点まで概観して、まとめてみたが、実に多岐にわたり、充実した出版内容に改めて驚く。

古代の楔形文字史料から、写本、活字活版本、マイクロフィルム、CD-ROMに至るまで、いわば本や情報伝達媒体を、人類が約二千年余の文明史上で、どのように創出し利用してきたか、その知的活動プラチック展開の歴史をたどることができる程、出版文化史、図書館学・情報工学の既刊書は内容が豊かである。本稿で、なるべく広く、BLの出版活動を、既刊書目録や同館の最新公報の情報に基づいて紹介する。

2. BLの出版物と活動

2.1 編集・発行の担当部門

出版活動は、一つの部局の専管ではなく、概ね次の6部門が独自に展開している。

- ① National Bibliographic Service—Boston Spa.
- ② DSC (Document Supply Center)—Boston Spa.
- ③ Humanities & Social Sciences—London/Russel Squareの本館
- ④ National Sound Archive—London/Exhib. Rd.の分館
- ⑤ R&DD (Research & Development Department—London/Sheraton St.の分館
- ⑥ Science Reference & Information Service—London/Southampton Bldgの分館

本館及び四つの分館で分業している各部門が出版を行っているが、全てのタイトルは、国内、海外ともに商業出版されており、入手経路も整然とまとめられている。以下に、主要な出版物を紹介する。

2.2 研究・開発部 (R&DD) の出版物

この部門の出版物は、図書館学と情報科学の二大分野に集中しているが、それらの対象読者層は、必ずしも図書館運営や現場の管理職、実務担当職の人々に限られているわけではなく、広く一般の読者層でも、各分野に新しい関心を持ちはじめている人々向きに、啓蒙的入門書が数多く出版されている。

出版物は、8種の叢書別に、逐次継続刊行されているが、主要な叢書名は下記のとおり。

- ① LIRR (Library & Information Research Reports) No. 84まで既刊。
- ② BNBFR (Brit. Natl. Bib. Res. Fund Reports) 既刊54。
- ③ BLRR (Brit. Lib. Res. Rep.) 既刊14。
- ④ NSLIS (Natl. Surv. of Lib. & Inf. Ser.) 既刊3点のみ。
- ⑤ BLRP (Brit. Lib. Res. Paps.) No. 96まで既刊。
- ⑥ B-SP (BOWKER-SAUR PUBLCTNS.) 1990年発刊 既刊4点。

各叢書の既刊号タイトルを逐一通覧して、まず気付くことは、各叢書別に画然と分けて、図書館学・情報科学の基礎的入門書や応用・実用書等が刊行されているわけではない。各巻号のタイトルは多岐にわたり、同じテーマの本が他の叢書にも散見する。編者や執筆者は各方面より総動員されているのであろうか？

(1) LIRR

初巻(1984)は既に絶版となっている。他にも、15点は絶版だが、No. 43(1986)以降分は完全に揃う。

次に、当叢書の抽出テーマが、どのように変遷してきたかに注目すると、まずNo. 2(1982)は、「公共図書館におけるPRESTEL」、No. 5は「1981年の英国における十代の世代層向けの公共図書館サービス」となっている。特に注目すべきは、1978年より英国内の図書館に実験的に導入された、運営合理化用に開発されたPrestelの展開、運用の成果等をレビューするタイトルが初期の巻号には多い。

他方、優れて実験的な「電子メディア版ジャーナル」発行のシステムとしての“BLEND”システムの展開を跡づけた巻号も、BLEND No. 1(1984)から最新のNo. 9(1991)まで刊行されている点も重要である。(BLENDとは、BIRMINGHAM & LOUGHBOROUGH ELECTRONIC NETWORK DEVELOPMENTの略

称)。

BLENDの詳細や今日の実験的存続については未詳ではあるが、これは、将来の科学技術専門雑誌を、冊子体版ではなく、まずオンラインのデータベースに入力して、予約購読希望者はオンラインでアクセス、読解するという新しいシステムの情報出版であるとのことである。

BLENDにおける冊子体版とオンライン版の製作コスト比較、当システム活用に意欲的なユーザの反応、総覧・抄録化・註解専門ジャーナル発行の試みなどが取り上げられ、今後の“エレクトロニクス・ジャーナル”の可能性と課題をまとめている。

(2) BNBFR

SGMLの解説書、英国における書籍価格調査、公共図書館の収書規準と契約入門、蔵書利用度の調査方法、エレクトロニック・ブックの出現、出版産業における人材雇用、著者達と情報工学、1990年代におけるマルチメディア等、多岐にわたるテーマの出版物が揃っている。特にBNBに関する解説書に偏らず、広く出版産業や図書館界の関心テーマを取り上げている。

(3) BLRR

図書館の機械化、情報工学の発展、大学や専門学校における情報検索教育等のテーマを扱い、最新号No. 14(1990)では、英国図書館R&DDにおける人文科学分野の情報収集の成果と現状を、細部にわたり詳しくレポートした論考約50篇を収載している。

単なる書籍、雑誌やAV商品にとどまらず、人文科学分野の全情報源を総覧して、いかにして図書館は、それらにアクセスし、有益な媒体で収集し、閲覧・利用者に提供できるかをレビューした最新のレポートであり、我が国の斯分野専門家には興味津々の内容である。

(4) NSLIS

既刊は3点だけだが、世界の各国における図書館・情報サービスの現状をレビューするユニークな調査レポートで、No.1 中国、No.2 ユーゴスラヴィア、No.3 チェコスロヴァキアが

1989～1990年間に刊行されている。

各国の図書館・情報サービスの全容とは、いわば1990年代の最も重要な国勢インフラのバロメーターであり、それは、経済、社会、教育から科学技術、医・薬学、農学迄、各国の近代化、情報化及び国民全体の啓蒙、教育の上で最重要な課題である。当叢書の後続巻が待望される。

(5) BLRP

No. 1 (1986) から No. 96 (1991) まで刊行されており、相当の刊行点数で、年平均で15点のスピード出版である。大半は、R&DDの研究プロジェクト・リポートや会議録であるが、1990年代の最新巻号のテーマを通覧すれば、CD-ROM ネットワーキング、情報工学と印刷産業、JANET (Joint Academic Network), BLEND, OSI (Open Systems Interconnection), ARLIS (Art Libraries Society) など、近年、英国内で結成された情報機関の共同事業で開発した情報データベースの解説書が目立つ。

例えば、JANET は1984年に結成され、現在では、英国内で合計100を超える大学、専門校、研究機関が加盟しており、各機関の所蔵図書、文献及びデータ等の相互利用、情報検索、入要文献やデータの出力伝達面における相互乗り入れ支援体制を推進する事業である。

ARLIS は、英国各地で開催される幾多の美術展示会の展示目録収集用のデータベースである。美術館や博物館の資料の中でも、学問的・実証的な価値から見ても大変貴重な展示目録文献の入手に役立つ事業である。

(6) B-SP (Bowker-Saur Publctns)

世界の出版界でも特に図書目録等の総記出版の電子化では最有力の出版社であるバウカー (Bowker-USA) とザウール (Saur-独) の両社が BL に協力して編集・発刊する新叢書である。

既刊は4点で、その中には、「西暦2000年における英国の情報産業」とか、「学術的情報伝達と定期刊行物の価格」等の、大変刺激的なタイトルが見られる。この叢書は、全点ハード版で刊行され、BL の R&DD が支援する特別調査や研究のプロ

ジェクトの総括報告を発表する。

2. 3 CD-ROM 版の出版物

現在、CD-ROM 版で刊行され、入手できる出版物は下記のとおりである。

(1) BNB ON CD-ROM

BNB (BRITISH NATL. BIBLIOGRAPHY) は、英国図書館がイギリスとアイルランドの毎年の納本記録を年刊で集成する、いわば英国の公式出版記録であり、冊子体版では1964年以来、毎年刊行されている。

CD-ROM 版は、「Back file 1950～1985」分が2枚のディスクに、「Current file 1986 to Date」が1枚に入力されている。冊子体版は、既に初期の年次分で絶版になっているものがあり、1964年以降分を毎年分1巻ずつ揃えることはできるが、CD-ROM 版は1950年以降分の全年次の納本データを入力しており、英国出版物の検索には最有力の検索ツールとなろう。

最新年次分として、別に1989年分がCD-ROM 化され発売されているが、これにはBNB MARC も追加された。年次を区切らずフルセットで購入すれば有利な特価も適用される。

(2) BOSTON SPA SERIALS

もう一つ注目すべきCD-ROM 版は、DSC 部門が所蔵する膨大な逐次刊行物の全書誌データを入力した「BOSTON SPA SERIALS」。1991年に発売され、購入者には発注年次の春と秋にデータ更新サービスがある。

基本データは、DSC 所蔵の逐次刊行物約36万点余の完全な書誌情報であり、毎年3万5千点の新しい収書分も追加されていくという。ひと口にSERIALS と総称しても、一体、どの位の種目の逐次刊行物が含まれるのかを眺めると、次のとおり広範なもので、年間、500万件もの検索・複写版注文が、英国のみならず全世界から寄せられているDSC の蔵書の偉容がわかる。

含まれるのはPeriodicals, Journals, Annuals, Monographs in Series, Newspapers, Irregulars, On order titles と案内されており、それらの原報

は、DSC だけではなく、BL の人文・社会科学部、科学総記情報部はもとより、ケンブリッジ大学図書館と科学博物館付属図書館の2館の蔵書分も網羅されている。

CD-ROM 版のソフトは、“Search”と“Browse”の二つの機能を備え、ユーザは特定タイトルや巻号等の検索・確認ばかりではなく、特定の分野、テーマ、キーワードの指定で、関連のあらゆる文献をスクリーンの上で通覧することができる。これも極めて重宝である。

(3) BOSTON SPA CONFERENCES ON CD-ROM

もう一点、異色のCD-ROM版として“BOSTON SPA CONFERENCES ON CD-ROM”が1991年に発売されたが、これは季刊ベースでデータ更新される。

この入力データ内容は未詳ではあるが、冊子体版では、“INDEX OF CONFERENCE PROCEEDINGS RECEIVED”が1985年以降、年刊及び最新年次分は月刊の年間予約ベースで発売されており、これらのデータを統合して1枚のディスクに入力したものと見られる。

ただし、データは、あくまでも、英国及び世界各国で開催された学会、国際会議、業界の総会等々で、それぞれのProceedings原報がDSCに既に届き、収蔵されたものに限られているはずである。それでも、CD-ROM版1枚を要するデータ量とは相当のものであり、会議名やProceedingsのタイトル情報だけではなく、もう少し詳しい内容も入力されているはずである。

海外で開催される国際的な学会や会議のProceedingsは、商業出版物として刊行されるケースは少なく、大半は、参加者にのみ配布されるだけであるが、あらゆる分野で、最新の研究発表や協議内容は注目されており、図書館や研究機関には不可欠の最先端一次資料とも目される。DSCが、これらの有益なProceedingsの収集、書誌データ等の整理、統合に着手して当CD-ROM版を発売したのは快挙と言える。

2.4 マイクロ版の出版物

BLのマイクロフィルム版出版物についても、一応このへんで総覧しておく必要があろう。

フィルムやフィッシュ形態のマイクロ出版物については、BLはおよそ1985年頃から鋭意出版活動を展開しており、内容を見ると、総記類の書誌目録が大半であるが、合計20点に及ぶ。

(1) マイクロ版の存在・利用価値

冊子体版とCD-ROM等ニューメディア版との間にあって、マイクロフィルム版の存在価値(レゾン・デートル)と利用価値は、現在も決して無視できるものではない。

改めて確認すべきことは、まず、マイクロフィルム版での研究資料・文献類の収蔵上のメリットで、その収納スペースの超経済性、専用のリーダー等関連備品の比較的低廉な経済性、拡大・複写紙面速成等の利便性にある。他方、BLのマイクロ版に限らず、広く世界の有力なマイクロ出版社が出版しているマイクロ版には、冊子体では入手できないような膨大な古文書、史料、統計データ、学位論文原報等が揃っている。

ニューメディアの時代到来は、マイクロ出版の衰退を招来するわけではなく、BLでは、冊子体、マイクロ版、CD-ROM版の3種で出版している書誌目録BNBもある。世界各国の図書館では、継続的に購入している逐次刊行物や各国の図書目録が少なからずあり、これまでの収納蔵書分の出版形態を一挙に切り換えるのは難しい。他方では、マイクロ版、CD-ROM版の新しい検索用途や有効な館内外利用のメリットも無視できず、当面、慎重に併行して利用していくことが必要であろう。

(2) BLのマイクロ出版物

BLのマイクロ出版物の代表格は、まず同館の蔵書目録のマイクロフィッシュ版であるが、“1976~85年”はネガ版マイクロフィッシュで471枚セット、追加年分は“1982~85年”、“1986~87年”、“1988~89年”と各2年分ずつに区切られ、各フィッシュ100枚余のセットで発売されている。

次いで、注目すべきは、英国における18世紀100

年間に出版された記録のある全出版物の書誌目録を構成する壮大なコレクション, "EIGHTEENTH CENTURY SHORT TITLE CATALOGUE"で, 1990年に刊行されたマイクロフィッシュ版は, フィッシュ250枚セットで, 48分の1の縮刷, 解説小冊子付のバインダー2冊セットにファイル, 発売されている。

18世紀の英国における出版物の全容を, とにかく書誌だけでも的確にたどることが出来る上, B Lにその原本があるのかどうか, なければ世界のどの図書館にあるのか等も検索できるそうで, これも貴重な資料である。

他に, マイクロ版では, 世界中の Bibliography 類全出版物の総目録(1970~84年分), 英国の特許記録(1617~1980), 逐次刊行物のキーワード索引(年間予約制), 著者名索引, DSC 収蔵文献の ISBN 番号別索引等, それぞれユニークな検索ツールが刊行されている。

また, 世界全体の英語出版物の書誌を網羅する "BOOKS IN ENGLISH" は, 1981~1991間の年刊は各年毎にマイクロフィッシュ版で入手できる他, "1971~80" 間は累積版でも揃う。

"BRITISH NATIONAL BIBLIOGRAPHY" の "1950~84年" 分は, フィッシュ430枚セットで, 著者・タイトル両用版である。

2. 5 人文・社会科学部門の出版物

(1) 出版文化史等の専門研究書

B Lの冊子体出版物で, 図書館関係者には大変重要な幾多の書誌資料の分野以外を眺めると, 特に充実した既刊書を揃えているのは, 古代から中世を経て現代に至るまでの出版文化史, 特に写本, 聖書, 印刷・製本技術の歴史等を扱った本格的な専門研究書であろう。

1991年の最新刊20点の内訳は, 10点は, 中世に英国で出版され現存している貴重な写本や聖書, 地図の原典を解説した新著で, 各巻, 原色図版の複製挿入も豊富であり, B Lの学芸員や各大学の権威が執筆しており, 学術的にも最高のレベルの文献学, 出版文化史の論考である。

インキュナブラと称する「初期活字刊本」が西欧で刊行されたのは, グーテンベルグの活字印刷の嚆矢年である1456年以降の時代ではあるが, それ以前にも, 書籍は, パーチメント(羊皮紙)に手書きで1冊ずつ筆写された「写本」(Manuscripts)の形で存在しており, それらの起源は, およそ7世紀頃に, 英国北西部のノーザンバランド海岸沖の小島リンディスファーン(現名は Holy Island)に開設された修道院(Monastery)で, 恐らく何人もの修道僧や工芸職人が長年月を費して仕上げた『リンディスファーン福音書』にまでさかのぼる。

この福音書の原本は, 常時, 大英博物館の中央に公開展示されており, 英国に現存する写本(彩色図版入)の中でも, 最も美しく精巧な造本, 肉筆と挿画, 装飾の冴え, さらに約2世紀を経た後に頁余白に慎重に書き加えられた gloss や colophon の記録等で, 貴重な時代証言の遺産である。

中世に入って, 写本という手造り本で製作されたものには, まず時禱書(祈禱書)(BOOK OF HOURS)があり, 今回は, 13世紀にオックスフォードでウィリアム・デブライルズが造本した時禱書(祈禱書)と, 15世紀初期にベッドフォード公爵(ヘンリー五世の弟)の下で作られた時禱書(祈禱書)の2点が, 豊富な図版入りで解説, 紹介される。

アングロ・サクソン語から古英語(OE), 中英語(ME)の筆字記録として, 言語学史上も極めて重視される写本であり, さらに, 精巧な挿入図版(特に人物を中心とする iconography)は, 古代・中世の人々の生活様式, 宗教的感性や世界・宇宙観等を解説する上でも大変興味深い。

他にも, 『写本時代のオランダ本の研究』, 『中世の地図集成』, 『聖書の写本』等に関する専門書が出版された他, 『写字生, 正本と本』, 『タウズ製本所』(19C末, W・モリスのケルムスコット・プレスに協力), 『本のタイプフェース研究』, 『不思議の国のアリス/原本研究』等, 本造りの歴史をたどる上で注目すべき論考が出版されている。

(2) 日本に関する専門研究書

日本に関する本格的な専門研究書が1991年には3点出版されているので、少し詳しく紹介する。まず、後述の『BL所蔵和書目録—1700年以前の出版物』は、700頁に及ぶ詳しい解題付の蔵書目録解説書で、著者は前オリエント部副部長のK.B. ガードナー氏。

BL所蔵全635点の和書の内訳は、漢籍の日本語版89点、支那と日本の学者による仏教関係古書127点、その他の419点は読本を中心とする日本の古書である。大半は木版印刷本で、72点はその後の初期活字印刷本（木版またはブロンズ版）とのことである。

BLはこれ等の古典籍を過去250年の間に収集してきたようで、今回初めて総目録化された上、詳しい解題や、必要に応じて写真や図版も合計330葉挿入されて公刊された。どんな古典籍が含まれているか興味津々であり、我が国ではもはや見当たらないような珍本が、BLの蔵書に現存するかも知れない。

次いで、BLのOccasional PapersシリーズのNo.11として、『日本研究』と題する1冊の会議録（約400頁）も刊行されたが、これには、欧米の主要図書館や大学・研究機関の日本研究文献収集の専門家総勢30名余が一堂に会して、それぞれの所属機関における和書／日本研究文献収集の現状を報告している。参加者は、英国、北欧、東欧及び日本からの専門家が中心で、いわば、日本研究の今後の動向、英国中心にヨーロッパ全域での収書面での活動を展望していく上で大変有益である。

当会議録は、単なる蔵書明細の発表や収書計画に関する協議だけでなく、日本の伝統的な印刷、出版、造本技術などの相当に深い研究論考や在外和書古典籍の解題など、優れた研究発表11件も含まれる。日本側からは6名の専門家が同席して、日本からの情報収集・発信基地としての各種プロジェクトの説明、今後の計画、特に海外の図書館や日本研究機関が今後日本の出版物や情報を入手する上で役立つような、日本側の情報システム構築・稼働の現状と展望を伝えた。

もう一点の、大変異色の日本研究書は、『日本に

おけるイギリス工場』と題した1,200頁余の2巻本で、江戸時代初期に僅か10年間のみ営業した東インド会社の工場の日英交易全記録を復刻したものである。

1613～23年の僅か10年間のみ営業したこの東インド会社日本支社の社史が、なぜにこのような大部冊の専門書の対象となるのかは、我々にも実感は確かに湧かない。しかし、その社史資料が当時の日本の政治、経済、交易や商業の実情を正確に反映している一次資料の宝庫であるとすれば、話は別である。17世紀初頭に、イギリスは極東アジアとの交易を求めて、特に日本列島に、東インド会社の支社を設けることを重要な外交政策としていたことが分かる。

日英通商史の起源とも言える東インド会社日本支社の活動は、公私にわたる商用通信文、船荷証券など出荷記録、会計帳簿等まで総洗いしてたどられる。英国人は、いわば、日本の国際交易史を、商慣習の源流から逆照射して研究するほどに日英関係史を新しく見直す気運が高まっている。

2. 6 視聴覚・ビデオ等の製作と出版物

NSA部門が中心となり、近年はビデオ版による図書館学分野の職業教育用教材を製作・発売している。

代表的なものは、“The Nation's Asset”と題するビデオ3本セット（合計35分程の録画）で、BLの主要部門として、STIV, DSC, SRISの3施設の全容を紹介している。明らかに、理工医学分野に重点がおかれた編集、BLのサービス紹介のPR用ビデオであり、科学、技術と産業の3分野で、BLが如何なるサービス機能を発現しているかを紹介する。

他には、各専門テーマの図書館運営用ビデオ版で、『災害から蔵書・収蔵資料を守る方法』（20分物）、『図書館の保安対策』（22分物）、『印刷本の図書館内における扱い方』（18分物）が製作されている他、BLのAV資料全点の蔵書目録／冊子体版が刊行されている。

未だ、ビデオ版のオリジナル出版物は少ないが、

今後は、恐らく、職業教育（特に図書館学や情報検索分野）関連のビデオ版の製作が期待される。

2. 7 科学・技術及び医学分野の出版物

情報工学関連書は、既に各部門の叢書の中で、数多く出版されている通りだが、それ以外のSTM分野の出版は、テーマ別に眺めると、環境問題(7点刊行)、製造物所有権/特許関係(4点)の他は、生物工学や医学分野におけるテーマ別の最新情報サービス/記事索引などが目立つ。年間予約制の定期刊行物として、作業療法、リハビリ、terminal care等の情報誌はユニークである。

2. 8 その他の分野の出版物

以上、概略ではあるがBLの出版内容をご紹介したが、未だ洩れている分野も少なくないので、以下に総覧してみたい。刊行点数の多い分野やテーマとしては下記が挙げられよう。

(1) BL所蔵の英語以外の出版物蔵書目録

BLは、代々、必ずしも英国の出版物だけに蔵書を限定して収書してきたわけではなく、西欧各国語の古書やオリエント（日本も含む）の古文獻も大変に充実しており、学識者の間では有名である。

それらの蔵書目録が、詳しい解題を加えてほぼ洩れなく刊行されている点は、BLの特筆すべき出版活動であり、その対象文献の言語は、西欧各国語の他に、アラビア、コプト、エチオピア、ヘブライ、マレー、シンハリ、ペルシャ、サンスクリット各語にまで及んでいる。日本語の出版物は、1700年以前の古文書の蔵書でも、在外和漢書秘宝の筆頭に位する内容だが、その詳しい解題付蔵書目録は、昨秋一巻本で刊行された(2.5(2)参照)。全700頁、写真・図版330余の充実した内容である。

(2) 東西両洋の「写本」類蔵書の解説書

BLは東西両洋の古文書、特に写本類の蔵書が充実しており、英国の写本の他にも、古代ギリシャのパピルス蔵書目録、Codex Alexandrinus 原本(全4巻)、スペイン語の写本蔵書目録(全4巻)など、大変重要な古文獻の案内解説書が出版されて

いる。

(3) 旧大英帝国インド省の所蔵史料(India Office Lib & Records)

英国史や近世/近代ヨーロッパ及びアジア史の研究史料の宝庫ともいえる旧インド省の所蔵図書や充実した史料もまた、BLの大きな財産である。蔵書の目録が出版されており、16~19世紀のアジア諸国（特にインドを中心とする南アジア）の写本や古書の解題付蔵目は今なお刊行中である。

ペルシャ、ビルマ、ネパール関係の古文書目録もあり、それぞれ当該国でも史料保存がなされていない時代分を補完する意味で、こういった地道な蔵目出版も立派な事業である。

(4) 一般向きの図版入り・BL/BM所蔵品解説小冊子シリーズ

筆者がBL/BM見学のたびに、館内の売店で購入し、数々の所蔵品（古書、写本、工芸品等）の鑑賞の上で大変に便利な紙装版が20点余り刊行されている。この叢書には、特にタイトルがなくBL出版物の総目録では、単に“General Illustrated”と区別けされているが、単なる所蔵品目の図版中心目録ではなく、同館の学芸員や各部門の収書部長が詳しく解説し、大変に貴重な写真や図版が併載されており、学術書としても、特に大学院レベル以上の専門研究に役立つ。

主なタイトルは次のとおり。

聖書写本、英国史料文書、英国文芸手稿、図解児童書、日本の本の挿絵、楽器、新聞、中国の本の挿絵、ヘブライ語写本の挿絵、ビクトリア朝時代の本の挿絵、切手、英国の王家図書館、他。

3. BLが敢行する二大事業

(1) セント・パンクラスの新館への移転

以上、BLの出版活動の概略をご紹介したがBLは周知のとおり、現在、ロンドン市内のセント・パンクラス地区に、本館の移転を計画し、新館を鋭意建築中である。同館の最新の公報パンフレットによれば、ロンドンの現BM(British Museum)ビル内の本館や市内の各分館は全て統

合されて、1993年及び1996年の2回に分けて、大規模な移転が行われる予定である。第1回目の移転では、科学、技術、産業の全分野と稀覯書、音楽関係資料が一括移転され、新しい大閲覧室では、人文科学分野の蔵書も閲覧できるとのことである。新館への移転は、1,000万冊余の蔵書史料の移転や配架替えの手間等も考えれば、1年以上の期間を要するとの展望もあったようだが、当パンフレットによれば、閲覧者の便宜を十分考え、人文・社会分野の蔵書移転には2週間、科学分野は僅か2日間、特許関係資料は24時間以内に移転を完了させるという、超スピードの計画を明言している。

セント・パンクラスの新館は、英国流の伝統的な煉瓦とブルーのスレート張りの壮快な近代ビルとして、明年5月ごろ開館する予定だが、出版活動は、全て、休みなく継続されていくであろう。

(2) DSC の事業拡張

1990年代から21世紀を目ざしての、BLの構想と運営の基本的理念は、最新の時点において、このパンフレットに明快に謳われているが、そこでは、セント・パンクラスの新館への移転、DSCの規模拡張の二大事業を敢行するとして、新しくどんなサービスを展開するかの計画も明示されているので、最後に、その明細をご紹介します。全ては、新設または既存のサービス拡充である。

① Environmental Information Service 新設

② Japanese Information Service 新設

(科学、技術、商業の三分野に絞り、最新の情報を提供。ELNETと名づけたデータベースは、日本語の新聞・雑誌全230点へのアクセスを可能にする)

③ Patent Express Service 新設

④ Business Information Service 新設

⑤ Medical Information Service 新設

⑥ Biotechnology Information Service 新設

一見して、STM分野の最新情報(特に、研究開発、臨床/医療情報)の入手完備と速報サービスに最重点が置かれており、さらに、EC統合市場や合衆国ではなく、我が国の最新の技術及び商業情報のサービスが、わざわざ新設されたことは注目すべきである。

4. お わ り に

世界の最先進国としての英国の文化的成熟度がどの程度のレベルのものであるかは、出版活動の展開に如実にうかがわれるが、英国にも、日本にも共通する新しいグローバルな人類的課題は、同等に我々の双肩にずしりとのしかかっているのが昨今の内外の経済・社会情勢であり、地球環境問題ではなかろうか?

BLの出版活動の展開に学ぶべきことは、その世界的視野と人類全体の知的遺産の保管と保存、後世代への伝達という責任の自覚、不断のノウハウ開発、イノベーション志向と国境を越えての広報、伝達、職業訓練などへのサービス精神の旺盛さにあると思う。

読者諸賢のBLに対する深いご関心や注視度を疑う余地は全くないが、とにかく、21世紀に向けてのIntelligent Humane ForwarderとしてのBLの今後の活動は、古今のあらゆるメディアや情報媒体の併用、相続の観点から、専門領域を分担して眺めてゆけば、不断に新しく啓発、鼓吹またはレビューされる収穫があると思う。